

事業概要書

事業名	熱海の子どもの居場所づくりおよび新プログラム準備事業				
開始日	2021年10月23日	終了日	2022年3月31日	日数	160
団体名	特定非営利活動法人しずおか共育ネット				
(カウンターパート)	株式会社未来創造部、特定非営利活動法人熱海キコリーズ				
担当者名	井上美千子	スタッフ人数	7人		

事業費総額(税込)	1,000,000円
CF事業枠	1,000,000円
その他資金	0円

事業目的	<p>熱海の土石流災害で被災した子どものための居場所・学習支援を行うことを通じて、安心・安全な環境下で子どもたちがのびのびと過ごし、遊びや学びの機会を提供するとともに、災害の影響を受けた保護者の負担を軽減する。また、実施可能な計画策定を行うことで、本事業終了後も子どもたちへの継続的なサポートを行う体制を構築する。</p>
事業全体の概要	<p>●しずおか共育ネットとは</p> <p>特定非営利活動法人しずおか共育ネットは、多様な出会いと挑戦の機会の提供を通じ、次世代を担う人材の育成およびキャリア形成のための事業を行い、自らの個性と能力を發揮できる社会基盤づくりに寄与することを目的として活動している。</p> <p>すべての中高生が自らのポテンシャルに気づき、個性と能力を發揮できる社会の実現を目指し、「定時制高校生のための生き抜く力を育む事業」「キャリア教育コーディネート事業」「探究学習コーディネート事業」に取り組んでいる。</p> <p>2021年7月3日に発生した熱海市伊豆山地区の土石流災害では、認定特定非営利活動法人カタリバの連携パートナーとして、7月22日より、避難所となっていた熱海金城館にて、小学生以下の子どもの居場所「カタリバパーク」の運営および、CLUB HUBlicでの中高生の学習支援運営に参画した。</p> <p>10月以降は、カタリバの子どもの居場所運営・学習支援事業を引き継ぎ、実施主体として運営している。</p> <p>●しずおか共育ネットの目的と役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの居場所づくり・学習支援事業の運営 2. 地元団体への引き継ぎ及び新プログラムの準備 3. 活動の記録及び広報 4. 活動資金の管理及び有効活用 <p>●取り組むべき課題</p> <p>○背景</p>

しずおか共育ネットが行った7月6日からの静岡県教育委員会、静岡県ボランティア協会、静岡県社会福祉協議会、避難所の支援関係者からのヒアリング等で被災した子どもたちが下記の状況に置かれていることが判明した。

- ・自宅とは異なる避難所での生活によって常にストレスがかかっている。
- ・新型コロナウイルス対策の影響で、行動に何かと制限がかかる。
- ・熱海市の放課後児童クラブ（学童）は、昼間保護者のいない家庭の小学校児童が対象となっているため、子どもを預けられない家庭もある。
- ・夏休みが始まると、毎日朝から晩まで子どもにつきっきりの避難所生活になり、負担が増す。
- ・土石流災害により家が全壊、家族が行方不明になっている家庭もある。

以上の状況を踏まえ、熱海市子育て支援室が、避難生活を送っていた家庭の子どもたちに居場所と学習支援の機会の提供をカタリバに依頼し、その現地のパートナーとしてしずおか共育ネットが避難所における居場所運営を実施することとした。

また、熱海市の高校生が地域のために何かできることに取り組めるよう、静岡県立熱海高等学校と連携し、高校生対象の説明会・ボランティアマネジメントを実施した。

さらに、中高生とその保護者からは、「受験を控えた子どもの勉強に遅れが出てしまう」「親子がひとつの部屋で過ごす時間が長く、思春期の子どもとの距離感が難しい」「避難生活の長期化で子どもがストレスを抱えている」などの声が寄せられた。このような状況を踏まえ、熱海の地元団体 HUBlic 合同会社がシェアワークスペース CLUB HUBlic を無償で開放し、しずおか共育ネットが8月より、中高生の居場所づくり・学習支援の運営を開始した。

○子どもの居場所および学習支援の継続ニーズ

カタリバとの居場所づくり・学習支援事業は2021年8月末で終了したが、保護者を対象に実施した「子どもの居場所利用に関するアンケート」において、継続を望む声が多く寄せられたため、9月以降も継続することとした。

9月以降の会場については、当初、公共施設を候補地として検討したが、災害対応に使われるなどの理由で確保できなかった。また、CLUB HUBlicには子どもたちが安全に走り回れるほどのスペースがなく、民間の賃貸物件も条件に合った会場は見つからなかった。

そこで、会場探しについて支援団体間の会議で情報を共有したところ、シェアオフィス運営する未来創造部より支援の申し出があり、10月上旬までの期間限定でシェアオフィスを利用できることとなった。未来創造部からの申し出を受け、しずおか共育ネットが単独で居場所づくり・学習支援を継続することとなった。十分なスペースが確保できたことから、CLUB HUBlic で実施していた中高生向けの学習支援についても、未来創造部のシェアオフィスに場所を移し、小学生以下の子どもたちの居場所づくりと合同で実施することとした。

広さ 80 平米に及ぶ未来創造部のシェアオフィスは、窓から海が見える明るく開放的なスペースで、靴を脱いで過ごせ、子どもたちがのびのびと走り回ってストレスを発散することができる。また、会議室と個室を完備しており、静かな環境で中高生が勉強に専念することができる。さらに、1階にカフェを併設していることから、昼食は地元の食材を生かした料理をプロのシェフが毎回手作りしている。

シェアオフィスは、市街地の中心部に位置していることから子どもたちにとってもアクセスしやすく、熱海サンビーチと熱海親水公園が徒歩圏内にあるため、子どもたちが自然の中でリラックスできる環境が整っている。

また、シェアオフィスは、子どもたちとスタッフが集まっても密にならない十分な広さがあるため、感染症対策を徹底することができる。

子どもたちが置かれた状況や今後の見通しについて確認したところ、保護者からは、「10月になっても避難所での生活を余儀なくされている」「新しい住居への引越しで時間がない」「自宅の復旧や再建で余裕がない」「遊び場が被災し、遊ぶ場所がなくなった」などの理由で、引き続き子どもの預かりを希望する声が寄せられた。また、子どもたちからは、「避難所やみなし仮設では勉強に集中できない」という声が挙がっていた。こういった状況に鑑み、受験が落ち着く来年3月末まで、居場所づくり・学習支援を継続することとした。

会場については、未来創造部の支援により、通常1日 59,400 円のシェアオフィスの会場費を1日 24,750 円で来年3月末まで借りることができることになったため、10月以降も同じ場所を利用することとした。

●パートナー協働プログラム対象事業

①子どもの居場所運営および学習支援

- ・居場所運営期間：2021年10月23日～2022年3月31日
10月～12月は週2回土日開催（実施回数20回）
1月～3月は週1回土日のいずれか開催（実施回数12回）
- ・運営時間：10:00～17:00
- ・実施場所：マリンスクエア2F（熱海市渚町7-5 エムズ熱海ビル）
- ・対象者：未就学児及び児童・生徒約30人

【小学生以下の居場所づくり事業】

- 伊豆山土砂災害で被災した子ども（対象4歳～小学6年生）
- ホテル避難所に避難していた幼児・児童および伊豆山地区の自宅に戻った幼児・児童

【中高生の学習支援事業】

- 熱海市内に在住もしくは通学の中学生・高校生
- ・参加費：無料
- ・実施内容
 - 子どもの居場所開設及び学習支援
 - NPO法人日本教育再興連盟（ROJE）と連携し、大学生によるオンライン学習支

援

- 未来創造部と連携した食育講座・環境教育（ビーチクリーン等）
- 居場所運営に伴うボランティアマネジメント
- 昼食の提供及び地元の食材を生かした食育の実施（中高生以外の参加者にマリンスクエア café のシェフによる手料理を提供し、メニューについてシェフが説明する）

※同店は、「外食業の事業継続のためのガイドライン」（令和2年5月14日、一般社団法人日本フードサービス協会、一般社団法人全国生活衛生同業組合中央会）に基づき、新型コロナウイルス感染症予防の取組を実施している。

※静岡県は2021年10月1日、飲食店に要請していた休業や営業時間の短縮についての制限を完全解除し、通常営業が可能となった。

※新型コロナウイルスの感染が再び拡大し、静岡県が飲食店に対して制限を要請する事態になった場合は、本事業における昼食の提供を中止し、弁当持参とする。

②子ども向け新プログラムの準備

本パートナー協働事業終了後の2022年4月以降、熱海市内の団体がこれまでの居場所づくり活動を体験型の活動に発展させ、新しい子ども向けプログラムを実施できる体制を構築する。

新プログラムに参加を予定しているのは、株式会社未来創造部及びNPO法人熱海キコリーズで、必要に応じて他団体とも連携しながら実施する。

しずおか共育ネットと地元団体が以下の事項について協議・検討し、4月に新プログラムを開始できるよう準備を進める。

- (1) 新プログラムの実施主体・事務局体制
- (2) 新プログラムの対象・頻度・会場・参加料
- (3) 事業計画および予算
- (4) 各団体が提供するアクティビティの内容
- (5) 行政及び他団体との連携体制の構築

地元団体による体験・学習プログラムを継続的に実施することで、子どもたちの豊かな感受性を育み、人や自然、地域を大切にする心や自ら考えて行動する力を身に付ける。

同時に、子どもたちの預かりを通して保護者の負担を軽減する。

未来創造部及び熱海キコリーズが提供を予定している体験・学習プログラムの概要は以下のとおり。

○未来創造部

熱海の自然を生かした環境保護、自然体験、食育に焦点を当てたプログラムを準備する。環境保護活動は、子どもたちが、ビーチアートやビーチクリーンに参加することで、海を守る活動を学ぶ。自然体験は、海上やビーチでの様々なアクティビティを通して海の魅力を体験する。食育は、食品や栄養について学んだり、料理を経験したりすることで、食べ物を大切にする心を育み、フードロスに対する意識を高める。

	<p>○熱海キコリーズ</p> <p>森林での間伐作業や木材加工などを通して、自然環境について楽しみながら学ぶプログラムを準備する。県の認定を受けた森林環境教育指導者の資格を持ったメンバーが小学生向けと中高生向けの体験学習プログラムを企画・提供し、子どもたちが環境保全や森林・林業の大切さに対する理解を深める。</p> <p>●期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災した子どもたちに安心・安全な居場所を提供し、のびのびと自由に遊んだり、避難後はなかなか交流が持てない友達同士で遊んだり、宿題を実施したりすることを通して、子どもたちの心のケアを行う。 ・子どもを預かることで、被災した保護者が、復興復旧作業や生活再建に向けた各種手続き、仕事等に集中する時間を少しでも捻出し、生活再建に向けた後方支援を実施する。 ・熱海市内の団体が、子ども向け体験・学習プログラムを継続的に実施できる運営体制を整えることで、2022年4月以降も子どもたちの豊かな成長を支え、被災した保護者へのサポートを継続する。
<p>事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)</p>	
<p>① 子どもの居場所運営および学習支援</p> <p>(1) 子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所を提供し、子どもたちへの学習支援を行う。</p> <p>(2) 子どもたちに昼食を提供する。</p>	<p>熱海伊豆山地区小学生 児童・幼児約 40 人およびその家族約 100 人 熱海市内の中学生・高校生約 1200 人</p>
<p>② 子ども向け新プログラムの準備</p> <p>以下の事項について協議・検討する。</p> <p>(1) 新プログラムの実施主体・事務局体制</p> <p>(2) 新プログラムの対象・頻度・会場・参加料</p> <p>(3) 事業計画および予算</p> <p>(4) 各団体が提供するアクティビティの内容</p> <p>(5) 行政及び他団体との連携体制の構築</p>	<p>熱海伊豆山地区小学生 児童・幼児約 40 人およびその家族約 100 人 熱海市内の小学生約 1000 人 熱海市内の中学生・高校生約 1200 人</p>